

目的

落語の“笑い”を通じて海洋問題に興味を持ってもらうため、創作海落語披露＋環境専門家によるアクティブラーニングを実施して、海洋問題について知ってもらい、自分ごと化してもらう。また、活動広く訴求し、海落語コンテンツを多くの人に海洋問題に興味を持ってもらう。

目標

学校での海洋教育の入り口拡大と、海の落語コンテンツの認知拡大・訴求を目指し、全国で45回の出前授業を実施。また、多くの地域での海洋教育の普及と、海プロ事業展開の間口となるよう、自治体や教育機関との連携拡大が目標。

2023年度実施内容のまとめ

実施①



全国の小中学校にて**45回**の出前授業実施
他事業とコラボや自治体イベントへの出演も実施

実施②



新メンバーに落語家**ニツ目1名**
さらに、新たな取り組みとして**漫才師2組**も参画

実施③



自治体と連携した海のご当地落語を創作し、
地元民向けに海のご当地落語イベントを**2回**実施

量的成果（事業の拡がり）

- ① 出前授業を全国で**45回**実施。他海プロ事業とのコラボ3回実施。
- ② メンバーとして新たに**落語家1名**が参画
そして、新たに**漫才師2組**も参画
- ③ 自治体との連携が**10自治体**まで拡大し、
さらに落語家の自主的な声かけで**3自治体**で出前授業を実施

質的成果（次なる展開への芽）

- ① 落語家が講演をした、関係地のある自治体や団体に
自発的に声をかけることで、新たな申し込みがあり、関係を構築。
- ② 落語の笑いに止まらず、新たに**漫才協会と連携**した、海漫才を創作。
学校からのニーズもあり出前授業を実施予定。
- ③ 新たに**大田区**のイベントへの出演要望の連絡があり、
足立区は自治体予算で次年度の開催など自走へ向けた兆しが出てきた。

2023年度 課題点

- ① 連携する自治体によって連携具合にばらつきがある
- ② 小学校と中学校で、笑いの度合いに若干の差がある
- ③ 自発的にプロジェクト拡散に動く落語家とばらつきがる

2024年度 改善点

- ① 連携が強い自治体の連携事例を他自治体にも共有する
- ② 中学生向け、小学生向けと分けた落語の創作に挑戦する
- ③ 落語家が自発的に動いた好事例を他の落語家にも紹介する